



七国小だより

七国小学校の教育目標

自分を伸ばします

●進んで学びます

●心をみがきます

●体をきたえます

「言葉は上に飛ぶ」

校長 市川 利幸

去る5月23日の運動会では、5月とは思えないほどの低い気温の中での実施となりました。たくさんの保護者の皆様やご家族、地域の皆様の温かいご声援とボランティアの皆様に支えられ、第24回運動会を無事に実施することができました。ありがとうございました。

運動会の数日後からは、まるで夏のような気温の状況が続き、WBGT計測器での熱中症危機対応もすでに開始しています。急激な気温上昇に対する暑熱順化には個人差はありますが、数日から2週間ほどはかかるといわれていますので、気温・湿度のアップダウンで子供も大人も体への負担が大きい日々がもう少し続くと思われます。各学級でも指導をしていますが、ご家庭でも衣服の調整や選択の仕方、水筒の携行、帽子や日傘の使用など、お子さんの発達段階段階に応じてお声かけをお願いいたします。

さて、6月は「ふれあい月間」です。いつも以上に、自分も他の人も大切にすることを意識する期間です。その第一歩に「言葉遣い」があります。昔から日本では「言葉には不思議な力が宿る」と考えられていました。このことについては、信じる信じないにかかわらず、多くの人が結婚式の時や受験の前には不吉なことを連想させる言葉の使用を控えます。これは、言葉が相手の頭に悪いイメージを植え付けないように配慮してのこと・・・ある研究によると、人は後向きの言葉を聞くと、脳のやる気スイッチがオフになってしまうといえます。「あとひと頑張り！」という時は、学校生活の中ではよくあります。そんな時、自分の言葉が自分自身やクラスメイトに対して、良くも悪くも影響を与えるという自覚をもって欲しいと思っています。特に学校などの集団生活の中では、一人一人が発する言葉が、その集団内のやる気や雰囲気にかかわる重要な要素になります。

先日、「言葉は前に進むのではなく、上に飛ぶ」というお話を伺いました。

「ばか!」「なにやってんの!」「あっち行って!」などのチクチクしたトゲのある言葉を上に飛ばすと、やがてそれは全部自分の周りに落ちてくる。すると自分の周りは悲しい言葉や嫌な言葉で取り囲まれてしまいます。でも、「ありがとう!」「一緒にやろう。」「こっちおいでよ。」などの美しく温かい言葉を上に飛ばすと、まわりは美しく温かい言葉で取り囲まれてくる。どんな言葉で取り囲まれた人生を送りたいか?それを人は選ぶことができる。というお話でした。学校生活の中では、キツイ時やイラっとした時、モヤっとした時や優しくできない時も必ずあります。でも、まずはひと呼吸をとって気持ちを切り替える。そして、意識的に前向きな言葉を声に出し、互いに励ますことができる…そんな大人に育って行ってほしいと強く願います。



6月1日には3年生に1名の転入生を迎えます。新たに増える仲間と七国小の子供たちが、あたたかい言葉に取り囲まれ、笑顔がより輝きますように…。

本年度の特色ある教育活動

教務主幹

■キャリア教育の推進

七国地区では七国小学校と七国中学校が連携し9年間を見通したキャリア教育の推進を図っていきます。

【企業とコラボレーションをした商品開発（5年生）】

5年生では、キャリア教育の一環として企業とコラボレーションをし、子どもたちが商品を考え、実際に販売まで行う体験的な学習（総合的な学習の時間）がスタートしました。クラスごとに様々な企業と共同し商品開発を進め、完成品は12月にみなみ野駅前「アクロスモール」で子どもたちが販売をします。働くことの楽しさ、喜び、そして難しさや大変さを体験的に学ぶことで6年生の探究へとつなげていきます。



【自分の将来について真剣に考えるお話会（6年生）】

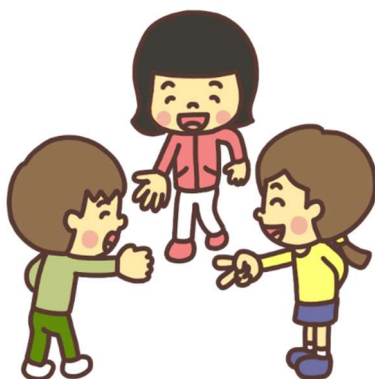
6年生の総合的な学習の学習では、自分自身のキャリアプラン（将来設計）について考えていきます。2月の学校公開では、様々な職種のゲストティーチャーを体育館に招き、お話会を開きます。実際に働いている大人たちの生の声を聴くことで、将来への希望をもって中学校生活を迎えられるように準備を進めていきます。

安心安全で楽しい学校

生活指導主幹

■七国小の素直な子どもたち

クラスの子どもたちが「学校大好き！」と言ってくれることがあります。学校では、毎日の教科学習だけでなく運動会やもうすぐ始まるプールの授業など楽しいことがたくさんあります。しかし、楽しいはずの学校生活が辛いものになってしまうことがあります。それが「いじめ」です。よくいじめの構造をドラえもんの登場人物に例えることがあります。いじめの被害者（のび太）と加害者（ジャイアン）、それをはやし立てる観衆や傍観者です。それらの当事者の中から「いじめはいけないことだ。」と注意する子供や大人に相談できる子供を増やすことでいじめが起りにくい環境を作っていくことが大切になります。しかし、そのような行動には強い正義感と勇気が必要です。「間違っていたらどうしよう。」「トラブルに巻き込まれたくない。」などと考えてしまい一歩を踏み出せないことは十分にあることです。



【じゃあ、どうすれば子どもを守れるか】

そこで大切になるのが周囲の大人の存在です。いつでも相談できる関係を作っていくこと。常にアンテナを高くして子供の小さな変化に気付くこと。いじめの芽を取り除き、安心して学校に通えるように学校と保護者・地域が一体となって取り組んでいきましょう。

6月は「ふれあい月間」です。お子様のことで気になることがありましたら、些細なことでも学校に相談してください。いじめの未然防止・早期発見にご協力をお願いいたします。